

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一人として、役割や助け合いをして感謝と喜びを感じながら暮らしてほしいという思いから事業所独自の理念を作り上げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時、理念を唱和し、共有できるよう意識をして働けるよう取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様や来訪者にわかりやすく掲示し、推進会議においても民生委員さんや自治会長さんもよく協力して下さるし、日頃から、この施設が地域のどうい事にお役に立てるか等の意見を頂き、地域の一斉掃除等、率先して出て、喜んでいただいている。事あるごとにいつも職員と話そう取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	閉ざされた、空間にならないよう挨拶はもちろんお茶でもとお誘いしています又、看板(お茶でもどうぞ)や入りやすい様、鍵等はかけず花を植えあかる玄関づくりをしています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事等には出来る限り積極的に参加し地域のお祭りや保育園の運動会等に参加させていただいている。地元の方へ積極的に声をかけカラオケ大会やお祭りにも参加していただくよう努めています。	老人会にどうしたら参加させてもらえるのか今、検討をしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元自治会の夏祭りがないので地元カルチャーセンターで習っていただけるかの発表の場として子供会、婦人会も楽しんでいただけるようしている。又認知症とは？早期発見の仕方、ならない為に、など問題定義をし、お芝居等で訴えている。		理念やグループホームの存在がより地域に浸透していく様、食事会などをしたらどうか等、地域の方の提案がありましたのでその中で脳活性のリハビリゲーム等もしていこうと準備しているところです。呼びかけは回覧板でまわして頂く様にしています。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の資料を職員に配布し各自評価していただき、皆で討議し意義の理解を深めるようしているが、理解できていない職員もいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や状況を報告し、ご家族、委員の方からのご意見、要望、助言などをいただいている。それを生かして、サービスの質の向上に取り組んでいる。又地域へが良き協力者になりつつあります。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	迷った点や相談があるときには、行政の担当職員に相談や意見をいただいている。又、グループホーム会においても行政の担当職員を呼び、質問等しやすく質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時等に制度の説明をご家族にしている。玄関に資料のパンフレット等を置いているし、職員も勉強会や研修では学んでいるが、事例にあたっていないので理解が薄い。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加したり、ミーティングで研修報告をして職員の理解を深めている。当事業所では言葉づかいではどうか等具体的に話あっているし家族へこんな言い方はどうでしょうと問いをたてている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>職員2名が対応し説明の漏れがないようつとめている。ご利用者やご家族さまの質問や要望もわかりやすく説明し理解していただけるよう心掛けている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様が一番話しやすい職員に意見や不満を言われることが多いため、ほんの少しのことで管理者に報告し施設長はじめ職員で話し合い改善に向かって早い対応する。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月間利用報告書を1ヶ月ごとにまとめご家族に毎月郵送している。面会時に出勤を明示している。また日常の写真等を見ていただき普段の状況や関わりをみて頂いて経過など伝えるよう心がけている。健康状態の変化があったときはすぐ電話で報告し意見をうかがって対応している。</p>		<p>職員の異動等については、面会時に報告、新人の紹介はしていますが、不安感がない様していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情処理の箱を置いている。今までに投函はないが施設長や職員に直接相談があったりする。内容は共有し職員全体で考える前向きに反映させていく様話し合い結果を、ご家族にお伝えしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員より意見が出ることは非常に歓迎している。言いやすいよう職員の連携意識を持たせるようにしている。利用者にとって良い意見であれば職員の前で発表しその場で決定しすぐ実行する様している。(出前等も含む)</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化により病院受診など本人を一番把握している職員を配置するなど、柔軟な対応が出来るよう職員で話し合い協力する体制で調整に勤めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職については面会にこられるご家族や、利用者には1ヶ月くらい前より伝える様にして新しい職員と重なるよう紹介をしてなるべく不安感がないようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては年齢、性別に関係なく事業所が一番大事だと思う高齢者が好きですか？」等の基準にあった方を採用している。現在20代から60代の職員がおり男性職員もいる。個別に悩みや相談に応じて心豊かに働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p>		<p>社会参加等を促している。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日頃からミーティングや朝礼などで入居者に対する人権尊重について説明や指導をしている。</p>		<p>研修等にも参加し人権教育や啓発活動に取り組み、理解できるような勉強会をし全職員への浸透を期待したい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を職員に呼びかけ事業所も支援している。内容をミーティングで発表し共有するようしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会部会への参加しているが、他県ではあるが1件は相互訪問したことはあるが、なかなか他の事業所が受け入れてくれない。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>悩みや相談にのっている。個別に食事をしながら交流したり又職員のメンタルケアの研修(労働基準局主催)も行ってストレスをためさせない様取り組んでいる。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>スキルアップに? がるよう学習手当てを出すようしているが個々の努力や実績に応じて面接をし昇給制度にしている。介護福祉士の県社協の学習費用等も支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>傾聴し、なるべく多く本人の声を聞くように聞けるように心配りしている。意思の疎通が出来ない方でも、不安なこと、求めていることに心の声を聞き表情などで読み取り、信頼関係が築けるように心掛けている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の困っていること、不安なこと、求めていること、を良く聴き共感し、「その方にとって何が一番いいのか」を一緒に考え、信頼関係を築けるように努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「その方にとって、今何が必要なのか」を第一に考え、小さな事でも聞き逃さず、その方にとって一番良い方法を、本人、ご家族と共に考え、対応出来るように取り組んでる。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気、徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者家族との面談や聞き取りを密にし、一日体験利用などをして頂きながら、場の雰囲気に徐々に馴染んで頂けるよう取り組んでる。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員がわからない事(梅干の漬け方、漬物の漬け方、三味線)など教えて頂き助けられたり、助けたいの関係を大切にしている。一緒に楽しみながら喜怒哀楽を共有し支えあう関係を築けるよう取り組んでる。スキンシップも取りながら心のバリアフリーを大切にしていけば必ず絆は築いていけると思う</p>	

グループホーム「仲間館 絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	問題や変化があった時、ご家族に時間をとっていただき、どうしてそうなったのか(背景)・・・、最も良いと思われる対処法を話し合いで決めるなど、協力していただいている。常に報告、相談をしていくようにしている		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	これまでのご家族と本人様の関係やつながり等を聞き取り、距離感があるご家族にはまず職員が仲良くなり、中に立ってコミュニケーションが出来るよう支援をしていく。よりよい関係になる様又持続するよう支援していく		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	ご自宅や思い出の場所になるべく近づいていただけるよう支援している。友人、ご家族に電話をしたい方には連絡をあげるよう取り組んでいる。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	一人一人の性格、相性、趣味などを把握し席を考えてやるようにしている。時には仲の悪い方が隣同士になった時等は職員が中に割り込み話題を変える。利用者間で何かをして頂かれた時は職員が率先してありがとうを言うように取り組んだら、利用者様に定着していった。ありがとうは幸せになる魔法の言葉だと思う		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、帰宅されても顔を見に行ったり、電話で声を聞いたりして、暖かい関係を継続していくよう努めている。ご家族の方もたまにきていただくこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションや表情やしぐさで嬉しいこと望んでいるこり笑顔や生きがいを育てるよう職員が努力している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時これまでの生活や馴染の家具や暮らし方などご家族やご本人から聞き取り、日々の経過の中で職員が観察、コミュニケーションで把握をし生活環境をなるべく近づけてやるようしている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>今までのご本人のペースを保ち寄り添い、観察し残存能力を把握し職員で共有している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者ごとに担当を決め一人一人の情報収集をする。ご家族、本人、施設長、担当職員、ケアマネージャー、等で話し本人様の今の1番を目指して介護計画を作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の日常の状況を観察し個人記録に記載して、毎月のカンファレンスやミーティングで協議し、介護計画の見直しを行い、大きな変化時はすぐ介護計画のみなおしをする。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活面に於いて食器拭き、洗濯物たたみ等残存能力を見出し、生かして頂く様支援し、表情等も記録するようにしている。また、その実践をプランに活かすようにしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が泊まられたい場合は対応している。面会の時食事を一緒にしたいと要望があれば300円で用意するようである。ご家族の希望があれば通院の支援にも随時応えている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今の所、必要性が発生した場合、協力させて頂き支援を行います。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があった場合、話し合っていきます。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向、必要性が出てきた場合は、協働させて頂きます。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望をまず取り入れかかりつけの病院へ受診しており、看護師が病院と連絡を取り合うようしている。また、病院の送迎を利用したり、往診もして頂いている。		

グループホーム「仲間館 絆」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医師との交流を持ち、支持や助言を頂き、情報交換など行っている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日々のご本人様の体の状態を把握している看護師がおい近くの医院の看護師さんや先生に気軽に電話でも相談が出来るような関係になってきた。全職員も日々の変化は朝礼で申し送るようしている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はなるべく多く通い任地の悪化を防ぐよう様に努めているし早期退院に向け病院と連携を図り情報交換を行っている。ご家族とも情報交換を行っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に問う施設の進み方をご説明して、ご家族の要望や意見等伺い終末期に入れば、日頃から聞き出したご本人の意思を、ご家族に伝えた上で再度検討していただくようにしている。医師とも方針の共有を行っている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人が日々違和感がなく暮せるよう、ご家族とも話し合い、ご本人のペースで残りの日々を一人にさせることなく笑顔が出る支援を目指している。変化に対し医師の協力が得られるようお願いしている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まだ事例はないが、ご家族及び関係者間で協力し合う事は本人様、ご家族様の不安感やダメージを最小限に抑えることだと思うので支援はいとわない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を傷つけないような配慮と個人情報の守秘義務は守っている。記録は入所時にご家族に説明し、同意を獲ている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>状態が悪い時や理解が難しい方など、訳を話し、幾つかに区切って解りやすく時間をかけてご本人の決定権を持たせている。又、好きや嫌いは最後まで残っているから最後まで自分らしく暮らせるよう支援している。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>誘導、声かけはしてもご本人様の意思決定を尊重するようにしている。なるべく希望に沿うよう職員間で協議しているし、管理者は利用者様の意見を事あるごとに聞くようにしている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族の要望やご本人様の意向の理容、美容店に行かれています。身だしなみやお化粧品も出来るよう備品として施設も少しは用意しているので、声かけだけは、するようしている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入所時の聞き取りで好き嫌いは聞いているが、コミュニケーションの中で聞くようにしているし、お買い物も毎回ではないが週に～2回は希望者と買い物に行くようにしているし、皮むきや材料の下処理、味見や後かたづけ等日常的にして下さいます。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>なかなか全員には、ご本人様が望むものどうは医師の指示のもとで、出来ない場合もあるが、週に1～2回はお買い物に行って好きなものをかっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくオムツは使用しない様にしている。一人一人表情や行動の中に訴えが現れるので見落とさず誘導をしている。オムツだった方も昼はトレーニングパンツとパッドに履き替えさせ時間毎のトイレ誘導にしている。		それにより尿意がわかられる時もあるように変化している。おむつよりパンツにを目標に職員のあきらめない意識の向上がもっと定着するようしていきたい。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	軽度の方は1番にと望まれる方が多く軽い口げんかもありましたので、職員、利用者様と話し合いをして順番を決めている。曜日は決めているが、状況や希望により変更している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にラジオ体操やリハビリ体操、生活リハビリ お買い物等をして夜間の安眠に心がけているが、昼間でもお部屋で休息している方もいれば、眠っていられる時もあり まちまちである。一応昼食後には休憩時間を作っている。強制はしない要している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごと(読書、ぬいえ、絵画、歌、踊り)は日常的にしてあり 時には呼びかけて右脳ゲームなどもしている。個々の気晴らしとして外に食事を望まれる方等はご家族の承諾を得て連れて行っている。2ヶ月に1回程、外食を楽しませている。日頃から生活リハビリの中で役割が出来ているようだ。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来られる方は自分で持たせているが、そうでない方は、施設の管理にしているが、お買い物の時には、本人にいくら持たせレジに並ばせ自分で払わせるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回～2回希望を取りお買い物に出たり 犬へご飯をやりに出たり 散歩したり又、毎年利用者様の希望で1泊旅行に行ったり 日帰り温泉に行ったり 外食にと外出の機会を大切にしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり 支援している	毎年利用者様の希望で1泊旅行に行ったり 日帰り温泉に行ったり ご家族との外食にと外出の支援は大切にしている。他の施設へおばあさんのお見舞いに、お寺さんへご家族との出かけられる事も多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があった時は電話を貸している、手紙を出してきて頼まれた時は、一応お預かりし管理者に相談し、ご家族へご連絡し承諾を経て、なるべく出すように支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも24時間面会時間は決まっていない。前もって言っていただければ食事と一緒に出来ますし、お泊りもしていただいております。又、長時間になっても良いようにラウンジも用意いたしております。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月のカンファレンス時に身体拘束の行為を学習し、その都度確認し合っていないよう心がけている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご家族や地域の方が自由に出入りできるように又、利用者様にも出て行きたい方には拘束しない形を取っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員間の所在確認の声かけをし徘徊があられる方に対しては声かけし、そばに寄り添うよう心がけている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、針、洗剤等必要なときは利用者と一緒に使うが放置はしない様している。一人一人に沿った危険を予知し、防ぐようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月のカンファレンス時に利用者個々の危険の予知を協議し、防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルをを用意しているが、職員間での教えあいはしているが、急変時や事故発生時にはすぐに施設長、管理者、看護師、に連絡し医療が必要と判断した時は医院へ又は救急車の要請をするようしている。		全職員が応急処置が行える様勉強会、研修を消防にお願いしている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器と避難経路の確認を年1回している。前の消防団にはお願いしているが、地域の人の参加は難しい。又、町が決められている非難待機場所は遠すぎて利用者には移動が無理と思う。近くに非難待機場所の確保はできた。		緊急時の協力が得られるよう地域住民の参加を呼びかけたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	不可抗力の説明及びその方に起こり得るリスクをご家族と共に話し、説明し理解していただき、数名は同意書もいただいている。だからこれをしてはだめ等、3ヶ背はしない方針でのびのびとした暮らしが出来るよう支援したい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	日ごろの記録(バイタル、顔色、表情)を参考に変化を読み取るように、指導している。おかしいと判断したときは看護師と話し医院へ連絡し指示のもと受診するようしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が指導にあたっている。薬等が変わった、増えた、減った、という報告とその背景、効用について申し送りがある。全職員にいきわたるよう申し送り簿にも記帳してある。		理解が出来ていない職員がいるので、その職員は服薬支援からはずしている。全員責任を持って安全に支援できる取り組みを目指したい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がどの様に身体的、精神的、弊害を全職員に勉強会やその都度、話題にしている。食事の献立を考える時、高血圧、糖尿、便秘を考え食物繊維を多く取らせる為、野菜を使った料理を3品～4品と乳製品1品を取らせるようしている。お茶も機械でその都度抹茶にし葉ごと飲ませるようしている。いろいろ工夫している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	3食後の歯磨きの誘導、支援をしている。口臭予防の為、お茶でのうがいも推進している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はその都度食事量、水分量のチェック表に記帳していく様している。決められた時間以外、コミュニケーション時も必ずお茶を出す様、指導している。利用者は排尿の回数が増えるとなかなか飲んでくれなかったが、少しずつ定着している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防に関するマニュアルはあるが、医師や看護師の指導を求め実行している。日常的なインフルエンザ、風邪予防の為、各玄関にはアルコール消毒とマスクを置いて、張り紙をし呼びかけている。手洗いとがいの励行と、台所やトイレ等ではハイター消毒を心がけている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の調達を心がけている。台所用品のハイター消毒と手洗いを励行している。熱を加えるなど心がけている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の確保、玄関前のお茶しませんかの看板、プランター等に季節の花を置いている。普通の家の玄関と同じよう工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の作品を貼ったり、テレビ横には緑やカレンダー、時計を置いたりしている。下駄箱上には行事にあった飾りをおくようにしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーセットも2組おいてあり、同じ空間に必ずいなければいけないようにはしていない。個々の時間や空間を十分取れるようである。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族への説明で寝具類、家具は今まで使っていたものでお願いします。又お仏壇や写真なども持ち込んで良い様にしている。本人様の空間としてご家族にお話して今までの匂いを残して欲しい旨をお願いしています。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時、定期的に窓をあけ換気をしている。個々の部屋にも換気扇を装置している。湿度調整にも気配りしています。なるべく外気温との差を無くそうとしているが、ご本人やご家族様の理解を得られないでいる。		入居時病院との違い等のご説明するが、時間が経てばここにいれば冬は暖かく夏は涼しいから預けている。他所そぞうと言われる。ご本人やご家族様の理解を得られない理由として病院より来られる方が多く病院の延長と誤っていられる方がほとんどでもっとグループホームの役割を伝える工夫をしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	片麻痺などが多い為、手すりをつける工夫をしている。個々の部屋においても必要だったらつけるようしているが要望は未だ無い。日常リハビリの一環として階段の横幅も(約1m60cm)ゆっくりにしてあり手すりを持ち介護者も横へ付き添われるようしている。車椅子以外の方は今ではエレベーターを使わず昇降できるようになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方のわかる力を生かしてやれる工夫として、出来ないことでも毎日一緒にやっているとわかるようになられる事もあるので、仲間としてあきらめず、楽しみながら根気強くしていく事にしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	今、畑に玉ねぎを植えてもらっているしチューリップの球根植えや外に動物も飼っているの遊んだり 陽気が良いときはデッキに出て体操やお茶などを楽しんだりしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム「仲間館 絆」

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、利用者さんが、自己決定される機会を多く設けている。利用者間で話して決まることが多くなったと思う。認知症にありがちな孤立的な雰囲気無く、何かあったらすぐ解決の話し合いを職員と利用者がするようにしている。今では利用者も共有できる一員として頼りになる介護される人ではなく年配者として存在の確立が出来つつある場所になっている。
- 2、職員が困った時等ご家族とともに、ご本人に一番良い方法を話し合える関係になっている。またご本人も交えた話し合いが出来、協力を得られるようになっている。ご家族も家庭内のこと等も相談に来ていただけるような関係をたもたせていただいている
- 3、閉鎖的な施設ではなく、地域の中でお買い物にも行き、知り合いの方と井戸端会議も出来るような普通の生活をしていただいています。又旅行も障害があっても1~2泊ぐらいは出来るので、ご本人達の希望をかなえられる施設でありたいし只今実践中です。